

真冬の朝日を浴びながら

まだ静かな道歩く
足音だけ聞こえてくる
真冬の朝日を浴びながらゆく

そっと吐き出す白い息が
光にほどかれ空へと溶けゆく
眠りの名残り 抱えて
影を連れて歩く

陽の光
冷たさの奥にある
かすかな温もりをこの
手のひらで確かめ
今日という日が
静かに始まる

駅へ向かうまばらな影
長く伸びては揺れている
真冬の朝日を浴びながらゆく

駅のたびに停まる電車
扉が開くとき冷たい風が
コートの襟 僅かに揺らし
小さく震えてしまう

車窓（マド）の外
冷たい風の中
淡い光 ビルのフチを染め
手すりを握りしめ
今日という日が
動き出してく